

えんちょう通信

No.58

令和3年11月29日
福島市立清水幼稚園
発行者 佐藤 一男

「はい、いいですよ。」



11月24日(水)、11月生まれの子どもたちの誕生会が開かれました。そのときに年少組の子どもたちが、「森のお風呂」という短い劇を見せてくれました。『もりのお風呂』(2004 西村敏雄 福音館書店)という絵本がもとになっています。

森の奥にお風呂がわいています。まあいお風呂です。そこにオオカミが来てお風呂に入ろうとします。お風呂に入るには、まず自分の身体を洗わなければなりません。

「ごしごし しゅっしゅ ごしごし しゅっしゅ」

足を洗って、おなかを洗って、顔も洗いました。でも、自分の背中には手が届きません。

そこにネコが現れました。

オオカミは「ネコさん わたしの せなかを あらってもらえませんか」

とお願いします。するとネコは「はい、いいですよ」と言って、すぐにオオカミの背中をきれいに洗ってあげます。でも今度は、ネコが背中を洗えません。

そこにワニがやってきます。「ワニさん わたしの せなかを あらってもらえませんか」とネコは言いました。ワニも「はい、いいですよ」とネコの背中を洗ってあげます。

同じようにして、クマやライオン、サルなど、森の動物たちが次々に現れて、誰かの背中を洗い、そしてまた誰かに自分の背中を洗ってもらいます。そして最初のオオカミも最後に来たネズミの背中を「ごしごし しゅっしゅ ごしごし しゅっしゅ」と洗ってあげます。

みんながまあるくなって誰かの背中を洗ってあげて、誰かに背中を洗ってもらいます。

誰も落とさず、みんながきれいになり、みんなで「ざぶーん」とお湯をかけて、「どぼーん」とお風呂に入ります。そして、「あー ごくらく ごくらく いいきもち！」とみんなが幸せになります。こういうお話です。

この「はい、いいですよ」の一言で、みんながつながっていきます。そしてみんなが幸せになります。「はい、いいですよ」が、とてもいいですね。

年長組の子どもたちも先生方も、真剣に見ていました。

ひとは自分一人では生きていけません。自分だけ幸せになろうとしても、それは難しいことです。

そういうことを、子どもたちは普段の劇遊びや絵本を読むことを通して自然に学んでいきます。